

「肝腫瘍（良性、悪性[転移性含む]）に対する 肝切除術の安全性と長期予後の検討」

この研究に関する科学的・倫理的妥当性については、倫理委員会で審議され、その実施について病院長より許可を得ています。

【研究の意義・目的】

肝癌は予後不良の疾患であり、世界的には悪性新生物の中では死因の第2位となっています。肝癌は、肝そのものから発生する原発性肝癌と、他の臓器で発生した癌が転移してくる転移性肝癌の2種類に大きく分かれます。我が国の原発性肝癌死亡者数は2000年代前半を最多として、その後は緩徐に減少しつつあります。しかし、いまだ年間粗死亡数が3万人を超えており、疾患対策上極めて重要な疾患です。また、高齢化に伴い、各種の癌が増加しており、転移性肝癌も増加しています。転移性肝癌においては切除の可否が予後を決めるものとなり得るため、転移性肝癌に対する積極的な治療も必要となります。

本研究の目的は、肝切除術の治療成績を把握し、予後因子や治療効果や合併症予測因子を調査、検討することです。

【研究期間】

病院長許可後～2027年12月31日

【研究の対象】

2015年1月1日から2021年12月24日の間に、肝切除術を施行した20歳以上の肝腫瘍の患者さんを対象としています。

【研究の方法および情報の取扱い】

ご提供いただく情報は、年齢、身長、体重、既往歴、手術日、診断内容、治療内容、検査内容、再発の有無などです。これらの情報は、通常の診療で得られた診療記録より抽出しますので、新たに身体的及び経済的負担が生じることはありません。

得られた情報は、個人情報漏えいを防ぐため、個人を特定する情報を削除した上で研究用の番号で管理し、研究責任者が保管・管理します。また、本研究の結果について学会発表や論文掲載等を行う際は、個人が特定できる情報が含まれないようにした上で、公表します。

【利益相反について】

この研究は特定の研究者や企業の利益の為にを行うものではありません。また、この研究により患者さんの利益（効果や安全性など）が損なわれることもありません。

【連絡・問い合わせ先】

この研究や個人情報の取扱いに関するご質問やご相談等がありましたら、下記の連絡先

までお問い合わせください。またご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

なお、対象となる患者さんの情報がこの研究に用いられることについて、患者さん（もしくは患者さんの代理人）にご了承いただけない場合には、研究対象としないのでお申し出ください。その場合でも診療上の不利益が生じることはありません。

当院問い合わせ窓口

福岡徳洲会病院 外科 担当者 乗富 智明
〒816-0864 春日市須玖北4丁目5番地
電話 092-573-622（代）